

日本最大の中世都市遺跡の歴史をたどる

戦国大名朝倉氏が築いた城下町全体の跡が良好に残り、278haという広大な範囲が国の特別史跡として指定される日本最大の中世都市遺跡「一乗谷朝倉氏遺跡」。

この遺跡の価値や戦国大名朝倉氏の歴史を楽しみながら学べる博物館『福井県立 一乗谷朝倉氏遺跡博物館』が2022年10月に開館する。

一乗谷の栄華を物語る、五代当主・義景の居館を蘇らせた「朝倉館原寸再現」。遺跡内・腹原地区の武家屋敷や町屋を1/30スケールで再現し、人形たちの表情まで豊かに表現した「城下町ジオラマ」。川湊「一乗の入江」の船着場と考えられる、石敷遺跡をそのまま露出展示する「遺跡展示室」の目玉展示など、国指定重要文化財を含む数多くの出土資料が、映像などと合わせ、わかりやすく展示。

現代に蘇った朝倉氏の栄華と文化を、新しい博物館で体感しよう。



川湊「一乗の入江」の船着場と考えられる石敷遺跡をそのまま露出展示



福井県立 一乗谷朝倉氏遺跡博物館

【住所】福井県福井市安波賀中島町

【お問い合わせ】0776-41-2301 (福井県立一乗谷朝倉氏資料館)

【時間】9:00～17:00 【休日】月曜、年末年始 (2023年2月までは月曜営業)

【駐車場】あり



100年に及ぶ“第2の京都”は夢の跡

一乗谷 朝倉氏遺跡

いちじょうだに あさくらしいせき
【福井市】

あさくらしいせき からもん 朝倉館跡・唐門

朝倉氏5代目・朝倉義景の館跡はその広さが約6400㎡あり、その繁栄度合いを感じることができる。遺跡のシンボルでもある唐門は朝倉義景を弔うために建てられた寺院、松雲院(しょううんいん)の山門で、江戸時代中期に作られた

(1991)に庭園が特別名勝、そして平成19年(2007)に出土品が重要文化財と、全国でも6例しかない国の「三重指定」を受けました。これは金閣寺や銀閣寺、醍醐寺、厳島神社、平城京と同じで、文化財としての高い評価を得ています。

調査以前は遺跡のほとんどが埋まっていたが、遺跡の歴史が見つめ直されはじめる、発掘調査が行われ、昭和46年(1971)に特別史跡、平成3年

「刀根坂の戦い」で織田信長に敗れた朝倉氏は一乗谷を放棄、一乗谷は信長によってすべてが灰燼に帰しました。その後、柴田勝家は拠点を北ノ庄に移し、一乗谷は歴史の中に埋もれていきます。

三方を深い山に囲まれ、天然の要塞“として室町時代から戦国時代にかけて、103年の栄華を誇った一乗谷。越前の大名へと上り詰めた朝倉氏は、この地に城を構え、越前の実効支配を行っていました。当時、応仁の乱で京の都は荒廃、多くの文化人や高僧が一乗谷に避難、彼らによって京文化が入り込み、華やかな「一乗谷文化」へと発展していきます。第4代朝倉孝景の頃には、人口が1万人にも膨れ上がったとされています。

しかし天正元年(1573)、

越前大野城

【大野市】

て築かれました。2層3階建の
大天守、2層2階建の小天守が
あり、内堀・外堀をめぐらせて
いたと言われます。石垣は、自
然の石をそのまま用いて積む「野
面（のづら積み）」という貴重な
工法で造られています。

現在の天守は昭和43年（19
68）に再建されたもので、内
部は歴代の城主に関する資料館
（12月～3月は閉館）となってい
ます。

丸岡城

まるおかじょう
【坂井市】

な馬肥やせ」の石碑は徳川家康の家臣・本多重次が妻に宛てた「日本一短い手紙」として広く知られています。

「霞ヶ城」の別名のとおり、春には周囲に植えられた400本のソメイヨシノの中に浮かぶ姿が、ひととき美しく幻想的です。

また屋根瓦は全国的にも珍しい石瓦で、福井でしか産出されない笏谷石（しやくだにいし）が使われているのも特徴です。

織田家の氏神として
開運の御利益がある。

劔神社は、1800年の歴史を誇る越前二宮です。戦国武将・織田信長の祖先は、同社の神官を代々務めた由緒ある家柄で、出身地の地名を取って「織田氏」を名乗ったとされます。信長自身、乱世にあっても同社を氏神として尊び、武運長久を祈るとともに、多くの寄進をして保護に努めました。

開運や勝負事に御利益があると、県内外から多くの参拝客が訪れています。神社所有の宝物には、銘入りでは国内で3番目に古い国宝の梵鐘をはじめ、多くの宝物が隣接する越前町織田文化歴史館に展示されています。境内には願いが叶うときには軽く持ち上がり、叶いづらいたきは重くて持ち上がらない「おもかる石」という不思議な石があります。

信長の祖先が守り続けた

劔神社

つるぎじんじや
【越前町】



JAPAN HERITAGE
日本遺産

息をのむほど美しい社殿

岡太神社・大瀧神社

【越前市】
わかもとじんじや・おおたきじんじや

唯一無二の社殿建築と
全国唯一の紙の神様。

越前市今立地区は1500年続く越前和紙の産地。この地にある岡太神社・大瀧神社は、日本で唯一、「紙の神様」を祀っています。今から1500年前、集落を流れる川の上流から女性が降りてきて、紙漉きの技術を伝えたといわれています。その女性＝川上御前を祀っているのがこちらであり、山頂の奥の院、山のふもとの里宮で成り立っています。ちなみに神社名を併記しているのは、両神社の本殿が奥の院に並んでいることから。里宮の本殿は江戸時代後期、当時の技術の粋を集めて再建。荘厳さと優美さを兼ね備え、全国でも類を見ないものに。昭和59年（1984）年に国の重要文化財に指定されました。

重要文化財に加え、
国の名勝にも選定。

高さ11mの大鳥居は、国の重要文化財に指定され、日本三大木造鳥居の一つと称されます。氣比神宮の主祭神「伊弉沙和氣神」はもともとは敦賀の人々に信仰されていた土着神であり、『古事記』では「御食津大神」、『日本書紀』では「筍飯大神」と称され、現在では氣比大神と呼ばれるようになりました。鎮座する前を北陸道が通り、敦賀が古来有数の港であったため、海陸の要衝を守る神として崇敬されるようになりました。

元禄2年（1689）には、松尾芭蕉が旅の途中、夜に氣比神宮を訪れ、境内から月を望んで「月清し遊行の持てる砂の上」と句を残したことから、国の名勝「おくのほそ道の風景地」に指定されました。

窮地を脱した御守り伝説

金崎宮（金ヶ崎城址）

かねがさき、くう（かねがさきしょうし）
〔敦賀市〕

難関突破にご利益、
お市の方の小豆袋。

敦賀市街北部に位置する金崎宮の奥にある金ヶ崎城址は、織田信長が窮地に陥った金ヶ崎の戦いの舞台となりました。

元亀元年（1570）、越前を支配していた朝倉氏に織田信長、徳川家康、木下藤吉郎（豊臣秀吉）らの軍が攻め入ったところ、浅井長政の裏切りにより挟み撃ちに。このとき、信長の妹であり、浅井長政の妻であるお市の方が両端を紐で縛った小豆袋を送ったことで察知し、難を逃れたといわれています。

そこで、難関突破のご利益があると、合格祈願や恋愛成就で訪れる人は後を絶ちません。

また、この場所で男女が花を交換すると結ばれるという言い伝えから、4月の桜の時期には花換まつりが行われ、多くのカップルが訪れています。

北陸道総鎮守にして越前国一之宮

氣比神宮

けひじんぐう
【敦賀市】



JAPAN HERITAGE
日本遺産



琵琶湖に似た地で築城

小浜城址 【小浜市】

おばまじょうし

京極家の後を継いで
酒井家が完成させた。

小浜城は若狭国を拝領された京極高次により着工が始まります。この地には後瀬山城という山城がありましたが、利便性の悪さから市内を流れる北川と南川の中州に慶長6年（1601）築城が開始されます。

京極家親子2代に渡って工事が行なわれていましたが、寛永11年（1634）、京極家は完成を見ることなく松江に転封となってしまう。その後、酒井忠勝が入城し、築城と整備が引き継がれます。そして寛永13年（1636）とうとう小浜城天守閣が完成します。着工から実に40年の歳月をかけた大工事でした。

その後、明治に入り、失火によって城の大部分を焼失してしまいます。現在は酒井忠勝公を祀る小浜神社が本丸跡に建立されています。

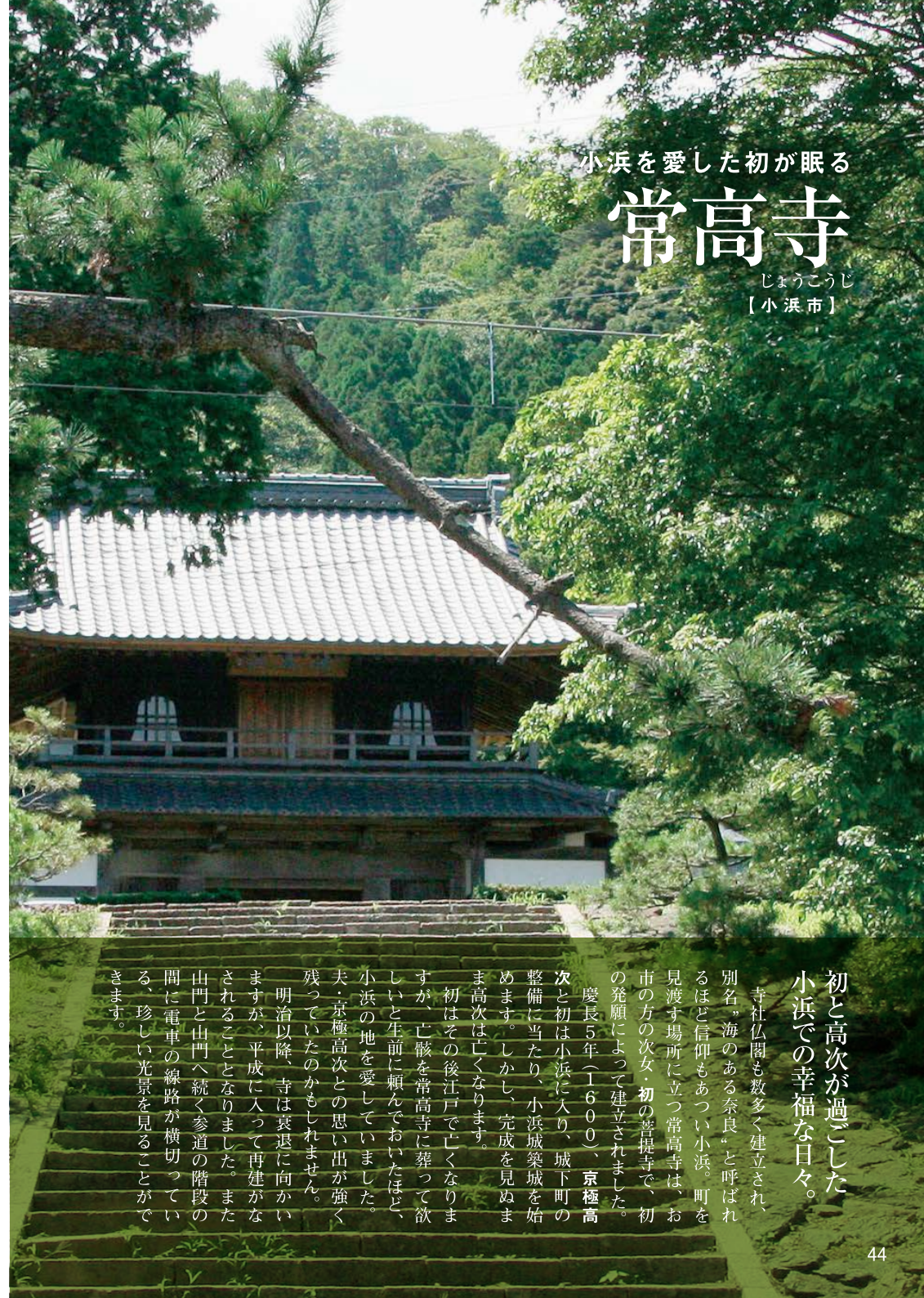
東京と小浜を結ぶゆかりの地

神楽坂 【東京都新宿区】

かぐらざか



江戸時代、小浜藩の江戸屋敷は東京神楽坂周辺（東京都新宿区）にありました。これは寛永5年（1628年）に酒井忠勝が三代将軍徳川家光からこの地を拝領し、後に小浜藩の下屋敷としたのが始まりです。神楽坂通りは、酒井家の下屋敷と牛込御門を結ぶ約1kmの道を、忠勝の登城道として寛永年間に整備されました。現在、神楽坂を登りきった矢来公園には、「小浜藩邸跡」と記された石碑が建っています。



小浜を愛した初が眠る

常高寺

じょうこうじ

【小浜市】

初と高次が過ごした
小浜での幸福な日々。

寺社仏閣も数多く建立され、別名「海のある奈良」と呼ばれるほど信仰もあつた小浜。町を見渡す場所に立つ常高寺は、お市の方の次女 初の菩提寺で、初の発願によって建立されました。

慶長5年（1600）、京極高次と初は小浜に入り、城下町の整備に当たり、小浜城築城を始めます。しかし、完成を見ぬまま高次は亡くなります。

初はその後江戸で亡くなりましたが、亡骸を常高寺に葬って欲しいと生前に頼んでおいたほど、小浜の地を愛していました。

夫・京極高次との思い出が強く残っていたのかもしれません。

明治以降、寺は衰退に向かいますが、平成に入って再建がなされることとなりました。また山門と山門へ続く参道の階段の間に電車の線路が横切っている、珍しい光景を見ることがができます。